

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「緩やかに、共に、楽しく、そして、可能な限り自由に・・・」という開設当初から理念を掲げ、認知症のある利用者の方が地域や施設の中で、心豊に暮らし続けていくことを目指した事業所の理念がある。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員が常に見える所に掲示し、繰り返し意識付け、よく話し合うようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの玄関の下駄箱の上に掲示し、折りに触れ、家族や地域の方にも分かりやすく説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩等で、近隣住民の方と挨拶を交わしている。施設の設置条件もあり、隣近所の方の訪問は少ない。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で開かれているイベント等には、年に4回程度参加している。防災の日には、地元の消防団の方とのふれあいをし、消火活動の訓練等を行った。	○	地域の方々との交流を促進し、認知症についての理解が深まり、より良い関係が築けるような取組みをしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	過去1回、市より依頼があり、長寿会と婦人会の交流会の行事の中で、認知症についての講演をした。	○	可能な限り、地域の高齢者の方々のよりよい暮らしに向けて、助言を得ながら取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義・目的を理解し、利用者一人ひとりの状況に応じて活かせるよう、話し合い改善に取り組んでいる。	○	前回指摘部分の市町村との連携、同業者との交流を通じた向上について取り組み、より一層のサービス向上をめざしたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価、外部評価、ケアの内容を報告し、意見をいただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者へ運営推進会議の参加をお願いし、助言を得よう取り組んでいる。運営推進会議以外では、現段階では行き来する機会はない。	○	市担当者に対し、事業所の実情や課題、ケアサービスの取組みを伝える等、運営推進会議以外にも協働・連携できる関係作りを行っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会等の中で、成年後見制度等について学ぶ機会を得ている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会にて、高齢者虐待防止関連法について学び、職員の勉強会にて報告し、事業所内での防止に努めている。また、事務所内に、高齢者虐待の種類と内容について掲示し、個々の職員が意識して、注意をする様に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書でわかりやすい説明に心がけ、納得の行くよう常に配慮している。不安、疑問点等にもアドバイスしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方の認知症の程度にもよるが、意思疎通が可能な方は、会話を重視し、意見、不満、苦情を運営に反映している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時や電話にて、家族との日頃のコミュニケーションに努め、日頃の様子、健康状態等を情報提供している。また、年に3回、御船荘だよりを御家族にお渡ししている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に目安箱を設置しているが、今までに利用された方はいない。来訪時のご家族の声、また、運営推進会議の中で御家族の意見を運営に反映している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃、ホーム長が職員の意見を直接聞き、必要に応じて運営者に報告している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	基本的にはホームの職員で調整を行っているが、急な状況の変化が合った場合には、兼務のヘルパー職員を確保し勤務の調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の希望を受け止め、可能な限り勤務体制の調整を図っている。また、職員にこういう職種であるという事の理解を促している。また、新しい職員が入る場合は、ホーム長より一連のオリエンテーションを行い、かつ既存の職員に付き添ってもらい、各々の利用者の方の特性に応じた言葉かけや接し方を説明している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度、認知症介護実践リーダー研修に参加するよう予定していたが、職員の入れ替わりで調整困難にて、来年度に研修を見送りにした。現場では、特に新しい入居者の方の言動の理解やサインの読み取りが難しく、適切な対応が図れない場面が数多くあり、職員相互にアセスメントや対応のアイデアを出し合い知識や技術を磨きあうOJTに努めている。新人職員については、研修を予定している。	○	21年度、認知症介護実践者研修と認知症介護実践リーダー研修の参加
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長が、グループホーム委員会、研修会等を通じて、同業者との交流する機会をもち、意見交換をし、他施設の訪問を行っている。職員1人は、他施設の音楽療法に参加し、サービスの向上に向けての取組みはあったが、現在はない。	○	勤務の支障がない限り、研修会等の参加を増やし、同業者との交流を通じたサービスの向上に取り組みたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務の時間外に親睦を持つ時間はない。ストレス解消方法を個人に任せている。勤務の支障がない限り、職員の希望休をかなえている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勉強会やOJTの中で方向性を説明し、助言、指導した事に対して、向上心を持ってもらうために課題を与えている。その課題に対して、自分なりに取組みクリアしようとした職員に対しては、評価をしている。	○	知識・技術を身につける勉強も大切だが、人間力を考えさせる勉強会も今後取り入れたい。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	傾聴する姿勢を大切にしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	主にホーム長が窓口となり、来訪時や電話相談時にも時間をかけてよく聞き、家族の方の困難事項を受け止める努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の相談内容を聞き、実際に面会した本人の状態を確認し、関係者より情報を収集し、必要なサービスを見極めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、本人の家庭での生活や身体状態の把握を行い、可能な限り施設を体験してもらう等、心理的負担をかけない様、ご家族と相談し対応している。入居日には、花束を渡したり、居室を花で飾る等し、歓迎の気持ちを伝え、本人が良い印象を持って生活を望めるよう工夫をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意な事や昔のしきたりなどを、様々な生活場面で職員が教えてもらったり、又、そうした場面を引き出すように、意図的に声掛けを工夫している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	外食、敬老会、文化祭等に御家族の参加の声掛けをして、家族同士が触れ合う機会を設けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会や外出や外泊や家族の方の施設の宿泊等、自由にしていただいている。生活内容を御船荘だよりにて報告、又、暑中見舞いや年賀状を家族宛に送っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設施設のデイサービス利用者との交流がある方は、入居後も継続してもらうよう、デイサービス利用者との触れ合う機会を設けている。馴染みの場所にドライブ等を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症のレベルが、1人1人違うので難しいが、必ず職員がそばにいて互いの会話に気を配り、混乱を引き起こさないように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても相談に応じ、医療福祉関係者と連携をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のその時々々の体調や気分に合わせて支援している。又、利用者の口調や表情などから、その時の本人の気持ちを察するように努めている。また、日々のかかわりの中で、本人の気持ちを大切にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人1人の生活歴は、入居時に御家族より聞き、又、回想法等を用いて昔の思い出話等に耳を傾け、これまでの暮らしの把握に努めている。又、これまでのサービス利用経過等については、ケアメジャーより、情報を得ている。	○	これまでの暮らしの把握に関しては、まだ不十分である。より利用者の方を理解するためにも、生きてこられた時代背景についての勉強が必要である。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の方の観察を密にして、基本的には手や口を出さず見守るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	御家族の面会時等に、利用者の方の状態を説明し、さりげなく課題やケアの現状を伝え、お話し合いをして、ご家族の生活に対する意向等を聞き、又、職員とより良いケアに向けて話し合いながら、介護計画を作成している。面会が困難な場合は、電話連絡等で意見を事前に伺うようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常6ヶ月ごとに見直しを行っているが、入居者の入退院などで状態の変化があったときは、家族と話し合いを行い、ケアプランの変更に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援経過記録をもとに、必要時ケアプランサービスの項目を一時中止したり、追加したりしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者個々の状況に合わせ、通院や買物など必要な外出支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方の協力を得て、地域のイベント「うめ〜らんど」に出向き、梅をちぎり、梅漬けを行った。地域の消防団の方と防火訓練を行った。	○	ボランティアの方と協力しながら、利用者の方の生活空間の拡大を図っていきたい。 今後も、地域の消防団の方と協力をしながら、防火訓練を行う予定である。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の方の状態の変化に応じて、ご家族、主治医、ケアマネジャーや病院のソーシャルワーカーと話し合い、特養入所の支援や医療機関への入院を支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	直接的な関わりはないが、併設施設のケアマネジャーを通じての関わりはある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診を継続できるように支援している。又、かかりつけ医が遠方、又夜間対応が出来なかったりする場合は、家族の意向に添って適切な医療が受けられるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現段階では、それぞれの主治医の指示にて、認知症の治療薬の処方を受けている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームに看護師の資格者1名配置しており、併設施設やかかりつけの病院の看護師と連携し、日々の健康管理の支援をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、病院関係者へ情報を伝えている。又、病院関係者より、早期退院に向けての相談を受け連携をとっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、主治医、ご家族、職員と話し合いをもち、今後の方針や生活に対する意向を確認した上で、ケアプランを作成し、全員でケア方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者については、主治医、ご家族、ホームの職員、かかりつけ医の看護師、訪問看護ステーションの看護師、併設施設の看護師と連携し、チームとしての支援に取り組んだ。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族に承諾の上、関わるケアの関係者間で情報交換を密にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の方を受け止め、傾聴する姿勢に努めているが、常にとすると不十分である。記録物は、事務所に保管している。	○ 利用者の方の人格を尊重しプライバシーを守り、利用者の方が自分らしく穏やかに生活していただくように、全ての職員が知識と自覚を持って常にケアが出来るように取り組んでいきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知症の程度で自己表出や自己決定が難しい方もおられるが、日々のかかわりの中で、出来るだけ利用者の方のご希望が出やすいように話かけている。又、無理強いしないように心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活歴や、ホーム内での日々の生活の中で口にする言葉等から、利用者の方の希望する過ごし方を察し、出来るだけ本人の意向に添えるよう支援している。山菜採り、お位牌を持っていただき読経、買物、外食、忘年会での飲酒等	○ 利用者の方の生活歴などを基にヒントを得て、更にその人らしいよりよい暮らしが出来るよう努めていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	いつも清潔な衣服を着ていただき、外出前には着替えたり、お化粧をしたり身だしなみを整えている。パリカンでの散髪を希望の方は支援し、訪問契約をしている理容院の方にしてもらったり柔軟に対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方の体調等に応じて、食事の準備から後片付けを職員と一緒にしている。ホーム内で食事懇談会を開き、利用者の方の好み等を聞き、献立に反映している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	基本的には、主治医のストップがない限り支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	基本的には、オムツは使用しないようにしている。トイレ誘導を行っているが、失禁の羞恥心を配慮して、パンツタイプの紙おむつを使用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、午後の時間帯に行っているが、利用者1人1人に入浴の意向を確認しながら行っている。入浴の順番等は決めずに、可能な限り希望に添えるように対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活のリズムを考え、寝巻きに着替えたり、照明を少し落としたり、静かな環境を作る事で対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯物干し・たたみ、戸締り、食材の検品、日めくり等、利用者の個々の特性を活かして支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は、小遣いを自分で持たれている。買物に行った時は、レシートを保存しご家族の方が確認しやすいようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの裏庭等への散歩、併設施設の行事等への参加、デイサービスの方とのふれあい、又、利用者の方のご希望に応じて、地域のイベントに参加、買物、ドライブ等の外出支援を行っている。また、病院受診の支援も行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者全員、ご家族、職員にて会食できるよう、外食の支援を行った。ご希望の外出先は、家族に来院時や電話にて相談報告し、外出支援を行っている。(墓参り、帰省)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を使用している。又、利用者の方の通話中は窓を閉めるように配慮している。手紙、暑中見舞い、年賀状のやり取りを支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただけるように努めている。居室への宿泊もしやすいよう、ご希望があれば食事の準備もしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害を理解し、身体拘束はしないように全職員に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵かけの弊害を理解し、日中、利用者の方が自由に外へ出られるよう玄関の鍵はかけていない。利用者の方が外へ出られる時は、一緒に付き添う等支援を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の動きやサインを察知しやすいように、全員の様子をさりげなく見守っている。夜間は、定期的な巡回、あるいは物音、気配等を察知し訪室したり、利用者の方の排泄時はプライバシーに配慮しながら見守っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物、洗剤等は利用者の方の目に触れない所に収納している。ハンドソープは、ご自由に使えるように一人ひとりの状態に応じて準備している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故報告書を作成し、再発防止に向けて具体的な対応策を検討している。月に1回危機管理委員会に出席し、報告・助言を得たり、併設施設職員と一緒に事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応については、マニュアルを作成し、又、職員1人が代表で、消防署の協力を得て、急変時の対応の訓練を受けており、勉強会にて他の職員に伝えているが、定期的な訓練までは行っていない。基本的には、ホーム長に連絡し対応、状況によっては併設施設の看護師と連携をとっている。	○	定期的な急変時の対応の訓練をおこなう。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と協同で年に6回の消防訓練を実施し、また、消防署とも連絡を取り合っている。また、地域の消防団との協力連携を図れるよう、ホームの防火訓練を一緒に行うように、話しを進めている段階である。	○	地元の消防団の方との協力・連携が出来るよう、ホームの防火訓練に取り組んで行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ご家族に、起こりえるリスク(転倒、転落、誤嚥等)について話し合い、対応策を実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや入浴、食欲、その他日常的な観察を行い、記録に残している。主治医との連携も図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の方が内服している全ての薬について、全ての職員がその目的や副作用等については理解できていない。各医療機関からもらった処方どおりに飲ませている。又、状況をみながら各主治医に相談している。	○	勉強会
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、体操等を行い便秘予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、うがい、義歯洗浄、歯磨き等の促しをして、必要に応じて介助し口腔内の清潔に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個人の食事や水分摂取量は、日々チェックし把握している。又、併設施設の栄養士が作成した献立表を参考にして、ホームの献立も作成している。又、特別食(カリウム制限食等)について、退院時に病院の栄養士よりアドバイスを受けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防についてマニュアルを作成し対応している。ホーム内のハイター消毒を毎日行っている。全職員、月に1回の行政検便を受けている。保健所との連絡も取り合っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルを作成し対応している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	和風の建物に合う庭園が造られ、落ち着いたアプローチとなっており、手すりを設置している。プランターに草花を育てている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームが全体が、木造づくりとなっており、木の温かみを感じさせる。建物の中心に中庭があり、自然光が廊下を照らしている。和室には、神棚が祭られ、掘りごたつがある。施設内は、花を飾り、季節感を出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダやコミュニティーにソファを設置、和室には堀コタツを設置し、気の合った利用者の方が自由に過ごせるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方には、自宅で使い慣れた筆筒や身の回りの品、テレビ、お位牌等を持ち込んでもらい、自分の部屋で居心地よく生活が継続出来るよう支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に1日3回、又、随時に換気を行っている。温度調整は、利用者の方の体感温度にあわせ、こまめに調整している。乾燥時は、加湿器を作動している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりを設置、水道の蛇口の工夫、浴室の滑り止め、浴槽のまたぎを広くしたり、安全かつ自立した生活出来るように工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に表札や目印やトイレに張り紙をして混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダの所定の場所に喫煙場所を設置したり、裏庭で花や野菜や果物を収穫したり、周辺の山で栗拾い、山菜採りを楽しんだりされている。又、プランターで草花を育てたり、併設施設に飼っている犬に声をかけ楽しまれている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご本人にとって、「楽しいことは、より長く、楽しくないことは、より短く」というテーマで取り組んでいます。音楽療法の取り組みもしています。